

第1回 呉都市圏サービスレベル向上検討会

議事録

1. 日 時 令和7年11月14日（金）13：00～14：00

2. 場 所 呉市役所 2階 防災会議室

3. 出席者

[委員] ※敬称略

神田 佑亮	呉工業高等専門学校環境都市工学分野	教授
力石 真	広島大学大学院先進理工系科学研究科	教授
金納 聰志	国土交通省中国地方整備局広島国道事務所	所長
西川 貴則	広島県土木建築局	道路企画課長
山崎 恭誉	呉市土木部	土木企画室長
村上 浩一	広島県警察本部	交通規制課 課長補佐 【代理】
茶谷 祥央	広島県警察広警察署	交通課長 【代理】

4. 議事

- (1) 規約（案）について
- (2) 会長の選出について
- (3) 検討会設立の背景
- (4) 呉都市圏の地域特性・交通特性
- (5) 中央地区～広地区の現状把握
- (6) 本検討会の今後の進め方

5. 議事概要

- (1) 規約（案）について事務局から説明を行い、了承された。
- (2) 会長として、呉工業高等専門学校 神田教授を選出し、了承された。
- (3) 国土交通省の長期ビジョン「WISENET2050」に基づき、従来の道路容量増加型整備から、サービスレベル重視の道路行政への転換が必要であるため、呉都市圏でもサービスレベル（旅行速度）向上に向けた検討を進めるなどを報告した。
- (4) 広島県内の中でもロス率が高く、慢性的な速度低下が発生しているものの、実施中の事業がない呉都市圏を対象に、用途地域や工業団地、拠点立地状況、速度状況などの地域特性・交通特性を整理し、サービスレベル向上の検討区間の候補を「中央地区～広地区」に設定したことを報告し、了承された。
- (5) 中央地区～広地区の速度状況および拠点状況を踏まえ、検討区間を呉駅公園前交差点（交通拠点：呉駅）～広駅前交差点（交通拠点：広駅）に設定したことを報告し、了承された。
- (6) 次回以降の検討会において、サービスレベルの設定、検討区間の分析、対策区間の設定、要因分析、対策（案）の決定について検討を進めていくことを報告した。

6. 委員からの主な意見

○国道は高速道路に次ぐ規格の高い道路であるにもかかわらず、実際は信号や沿道利用によりサービスレベルを下げている。信号交差点や沿道利用、アクセス道路の影響の解析を本検討会にて行うのか。

<事務局回答>

通過交通が多いのか生活のための利用が多いのかなど、OD や利用経路を分析し、それらを踏まえてサービスレベルを検討する予定。

○インフラの質を高めていくためには、旅行速度のほかにインフラメンテナンスコストや道路空間の再配分、自動運転対応など様々な観点を含めた議論が必要だと考えるが、本検討会での検討範囲を定めておいたほうがよい。

<事務局回答>

道路行政として実施可能な範囲で、旅行速度を向上するための対策を検討する際に、これらの要素も考慮したい。

○この道路が果たす役割や機能を整理してからサービスレベルの検討をすべき

<事務局回答>

設定した区間が本来果たすべき機能と現実の使われ方の両面から期待されるサービスレベルの検討をすすめる。

○沿道の利用によって渋滞が発生しているのであれば、土地利用の規制や沿道の出入口の場所を変更するなどの対策も有効と考える。

<事務局回答>

国道 185 号だけではなく、周辺の路線も含めて面的に分析を行う。

○道路のサービスレベルに対する沿線土地利用の規範となるガイドラインのようなものがあると、理想的な沿道利用につながるかもしれないと考える。

○トライフィック機能を強化するとアクセス機能の低下が想定されるため、対策によるメリット・デメリットは整理したうえで、実際の使われ方をデータで把握し重視する機能を判断すべきである。あわせて、住民代表や都市局など幅広い関係者とあらかじめ議論することにより、調整がしやすくなるのではないかと考える。

<事務局回答>

OD や利用特性などの交通特性を踏まえて検討する。また、呉市もしくは地域の方を通じて地域の意見を聞くことも大事だと考えている。

○円滑と安全の両立を図っていくことが必要であり、自動車のサービスレベル向上と例えばバリアフリーなど交通弱者対策を複合的に検討することが望ましいと考える。

○これまで旅行速度のピーク時に着目することが多かったが、旅行速度の分散を確認することにより信頼性を評価できるのではないかと考える。

○行政が沿線の土地利用の制限を掛けることは難しいが、旅行速度のサービスレベルを明確にすることで、民間が沿道に施設等を整備する上での検討材料になるようになっていけばよいと思う。

以上